

1. 「藤原地区復興まちづくりの会」(9月29日開催)における意見

■みなさまからのご意見・ご提案

検討の進め方について	・ 図面を示す際は、位置がわかりやすいように工夫してほしい。
復興まちづくりについて	・ 歩道橋は、高齢者や車椅子の方に配慮してスロープを設置したり、避難空間としても活用できるように通路を広くしてほしい。 ・ 河川沿いの道路で歩道が切れているところがあり、人が歩くには大変なので、歩道を整備してほしい。 ・ 今回は想定外の津波が来たので、今後は、それも踏まえた対策を立ててほしい。

■主な意見交換の概要

防潮堤や道路等の施設について	Q：防潮堤の高さは何mか。	→	A：高さについては、県の発表では海拔+10.4mとなっています。これにより明治三陸クラスの津波は防げると考えられます。
	Q：防潮堤の裾はどれくらい広がるのか。	→	A：高さが示されたので、今後、設計などを進めていきます。
	Q：閉伊川の水門の効果や、河川を駆け上がる津波を考慮しているのか。	→	A：防潮堤を造る際には、防潮堤にぶつかった際の駆け上がりなども考慮します。
	Q：防潮堤の全てを点検してほしい。	→	A：県に点検してもらうように要望します。
	Q：JR線のルートはどうなるのか。避難の際に線路を渡れないかもしれない。	→	A：線路の位置は、現在の位置を想定しています。線路を横断する通路を設置し、通行できるようにします。
	Q：比古神社に避難したが、階段にヒビが入っていた。安全な避難路を整備してほしい。	→	A：今後の検討に参考にさせていただきます。
	Q：地震による地盤沈下で、道路が冠水するようになったので対策してほしい。	→	A：市でも現状を把握するとともに、今後、検討会で話し合ってください。
復興まちづくりについて	Q：パターンの資料では、藤原一、二丁目における避難路が不足している。	→	A：現在は計画段階であるため、図に示していませんが、今後、検討していきます。
	Q：強制的に住めなくなるところもあるのか。	→	A：被害の大きかった住宅地は、現状では危険なため非可住地に設定し、住宅を建てられなくなることがあります。区域は今後検討させていただきます。
	Q：防災無線は、災害時にできるだけ長く使えるようにしてほしい。	→	A：防災無線には柱にバッテリーがついています。今回の震災で、流されずに残ったものは、その日の夜まで使用できました。
事業手法について	Q：木材港に置かれている木材による二次災害も心配なので対策を考えてほしい。	→	A：県に対応を要望していきます。
	Q：構造規制等条件付可住地の建物は誰が建てるのか。	→	A：個人で、強固な構造の建物を建てていただきます。なお、現状では補助制度はありません。

2. 「地区復興まちづくり便り」に関する意見

(藤原地区に関する意見は提出されませんでした)

3. 「復興に向けた計画づくりに関するアンケート調査（7月実施）」の自由記入より抜粋

大分類	中分類	意見
防潮堤等の施設について	防潮堤	こわれた堤防を早く再建して欲しい。地震がする都度とても怖い
		今回の震災で藤原地区は防潮堤によって守られました。地盤も沈下していると聞きます。あと2m防潮堤が高ければ完全に町は守られたと思います。
		防潮堤が壊れたままなので不安で仕方がない。
	避難路	藤原三丁目仮設住宅前ガードは、車の通行が出来る様にしてほしい。
		避難の時 JR 線路を越えた高台に上がるが安全に逃げやすくするように3~5ヵ所位に上がり道がほしい。
	公共施設	藤原地区にも避難場所をかねた集会所（地区会館）をなんとかほしい。
	公営住宅	せっかく造った仮設住宅なので有料にして出来るだけ長く住まえるようにして頂きたい。
公営住宅を作る際は高齢者用は平屋にして頂きたい。		
公営住宅を望んでいるので希望した人、みんなが入居できるように、場所、戸数を確保してもらいたい		
復興まちづくりについて	将来像	堤防の近く等の土地を国と県・市で買い上げ、その場所に公共の施設、例えば税関・公湾センター、e t c を移転建築すれば良いと思う。
		長期的な視点、根本的な考えで、多面的な見方で復興に取り組んで欲しい。
		宮古湾に自衛隊補給基地誘致に向け名乗りをして、国の力で復興を目指すべきと考えます。
	漁港について	宮古は漁業を取ったら何にもないと同じだと思う。取りあえず養殖関係の復活を急いで欲しい。
		水産加工業種においては、敷地内いっぱい事業所を建設し、道路を物置場にしたり、荷捌き、搬出入等で道路を占拠し、往來に支障をきたしている状況がある。
		水産工場から出る処理水も良好でなく、その地域の生活環境の劣化が進む。業種によって用途の混在をなくした町づくりが求められます。
	情報提供	市の復興計画及び施設等の作成の情報を早急に市民に知らせて欲しい。
復興パターンについて	ハード面の整備を進め、そこに雇用の確保をし、防災対策と雇用対策を同時に進める事で、復興を早期に進めてほしい。	
	復興に向けた計画づくりには、どうしても住宅地の安心して住める場所が必要だ。ただ前のままに復旧できても地震の教訓が生かされないのでは計画と云えない。	
	業種にもよるが、工住混在地域は良好な生活環境を保てない。専用地域指定で集約化等をして配置する必要がある。	
事業手法について	防災対策	藤原地区の避難所が藤原小学校になっていますが立地的に低い場所にあり避難はしたものの非常に危険を感じました。
		防災無線も復旧していないので、避難の放送があっても聞きとれない。
		藤原地区には避難場所がないので、是非高台に天候、季節に関係なく行ける所がほしい。
		各地域に5階建てぐらいの防災センターを。その中に消防団、地域の自治会、その他各種の会を集合させ、意思統一をはかる。避難者は4階5階にする。ストーブ、水、食料、毛布等を常時用意しておく。
		避難所の見直し。比古神社石垣の所は盛土で危険であると思います。
		三重県大紀町の「錦タワー」を参考した避難施設が必要。

大分類	中分類	意見
事業手法 について	高台移転	被災した地域に平地が少ないので、近くの山林を市で造成して代替地として提供してほしいです。
		思い切った街づくりを行い津波の影響を受けない高台に住宅・商店（スーパー）・病院を設置し、津波の影響のない、市内から離れた場所においても、生活に不便の無い街づくりを計画してほしい！
		藤原・磯鶏地区にはそばに山がありあの山を切り開き団地にすべき!!
	面的嵩上げ	建物半壊程度の被害を受けた地域では、新規の住宅建築は盛り土もしくは高床でなければ許可しない等の制限を設け、50～80年の間には、全戸が安全な状態になっている様にする。
共同住宅	災害復興住宅の早期完成と入居者希望者が確実に入居できるようにしていただきたい。	
浸水区域 内の土 地・建物 について	個別再建 について	新築を考えているが再建支援など具体的な内容が決まらなければ前へ進めない。
		新たに土地や自宅の取得は経済的に大変である。できるなら震災前の土地に自己責任でよいので、新築し、一日も早く落ち着いた生活が送れるよう再建支援もお願いしたい。
	売却	震災した土地を買取して欲しい。 現在所有の土地に関して、国・県・各市町村により買上もしくは代替地による地所交換等出来るか検討願いたい。